

子育て支援のニーズ調査

小川恭子^{*}、¹⁾、小川千晴¹⁾、坪川紅美¹⁾、和久田佳代¹⁾、森下恵理²⁾

¹⁾ 聖隷クリストファー大学、²⁾ 聖隷クリストファー大学大学院

1. はじめに

少子化・核家族化・家庭や地域の子育て機能の低下等、子どもを取り巻く養育環境の変化にともない、今日では地域社会で子育て家庭に対して支援を行うことが求められている。1994年に発表された「エンゼルプラン」を皮切りに子育て支援に関する多くの制度・政策が論じられるなか、本学においても2009年10月より子育て広場「たっくん」を開設した。この広場は、本学社会福祉学部こども教育福祉学科が今年度の重点課題としてあげている「子育て家庭への支援」を具現化したものであり、目的は「学生にとっての学びの場」「親自身の学びの場、支え合いの場」「地域ボランティアの学びの場」を提供することであった。つまり、「親自身の学びの場、支え合いの場」を提供することで「子育て家庭への支援」を試みたものである。

一方、子育て支援は参加する親子のニーズに対応できなければ、本来の機能を果たすとは言い難い。このような状況に鑑み、本研究では子育て広場「たっくん」に参加した父母へアンケート調査を実施し、地域に求められている子育て支援のニーズを探ることを目的とした。

2. 子育て支援のニーズ調査

1) 調査概要

(1) 調査対象

子育て広場「たっくん」に参加された父親・母親を対象とした。回収数は21。父親は4名、母親は17名で、年齢は20代が7名、30代が13名、40代が1名である。仕事に関してはフルタイムで働いている方は4名ですべて父親であった。

(2) 調査方法

子育て広場「たっくん」開催時に、アンケート調査を実施した。なお、アンケート内容については「浜松子ども館・子育て支援アンケート調査（勝浦範子・福岡欣治 教育アンケート調査年鑑上・2003 創育社）」で報告された設問を参考に作成した。

(3) 調査時期

2009年10月20日、2009年11月28日、2009年12月15日の3回。

2) 集計結果

(1) 子どもの状況

子どもの状況に関しては、図1、図2の通りであった。

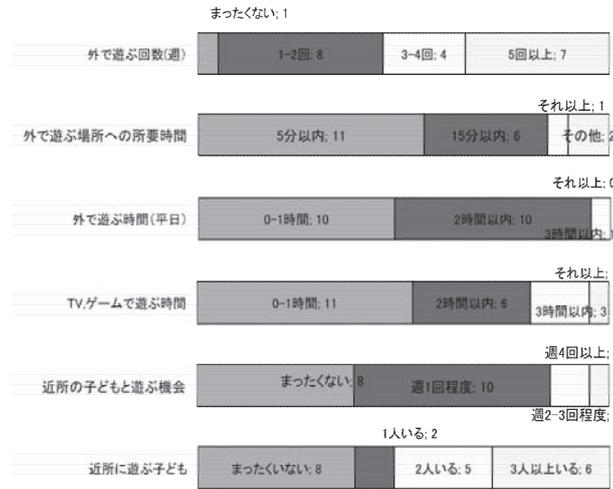


図1 子どもの状況

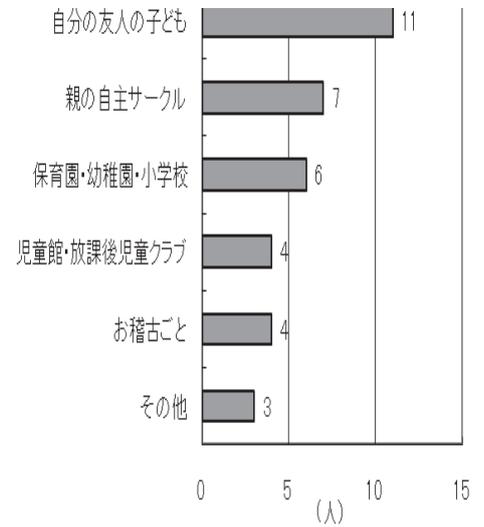


図2 近所の子どもと遊ぶ機会

(2) 子育てにあたっての不安や悩み

子育てにあたっての不安や悩みに関する12項目の間に対して、「おおいにあてはまる」、「少しあてはまる」と回答した人の多い順に図3に示した。どの項目も「おおいにあてはまる」と答えた人は多くはないが、「少しあてはまる」も含めると「安心して遊べる場所が確保できていない」(95.2%)、「子どもの遊び方が今のようなものでよいのか不安」(85.7%)、「近所の人たちとの子どもを通じた交流ができていない」(71.4%)、「子ども同士で交流する機会が少なすぎる」(71.5%)などと感じている。

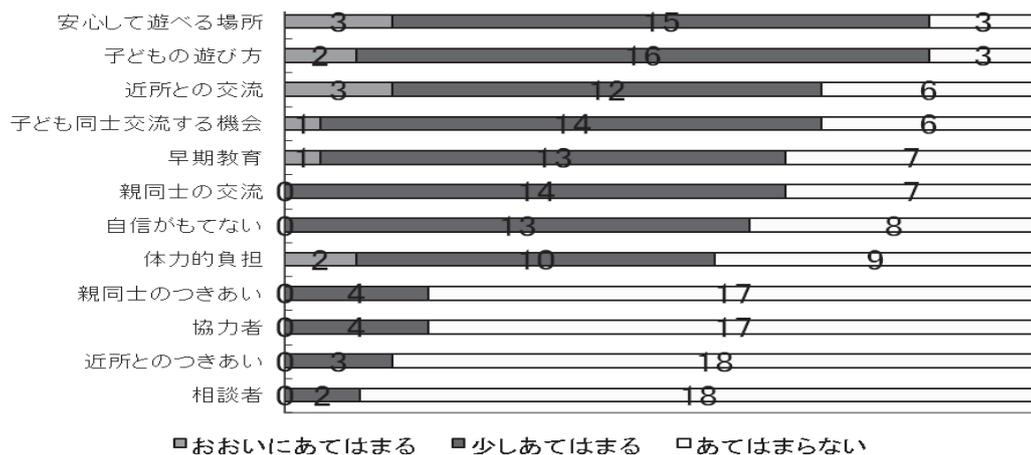


図3 子育てに関する不安や悩み

(3) 子育て中の気持ち

「あなたは最近、以下のような気持ちになることがありますか」の間に対する結果を、不安や疲れなどの気持ちについては図4に、満足感やゆとりなどの気持ちについては図5に示した。「育児によって自分が成長している」と感じている一方で、「子どものことで、どうしてよいかわからなくなることがある」(71.4%)、「子どもがわずらわしくて、いらいらしてしまう」(61.9%)、

「子どもを育てるためにがまんばかりしている」(52.4%) ことが「ときどきある」と答えていた。

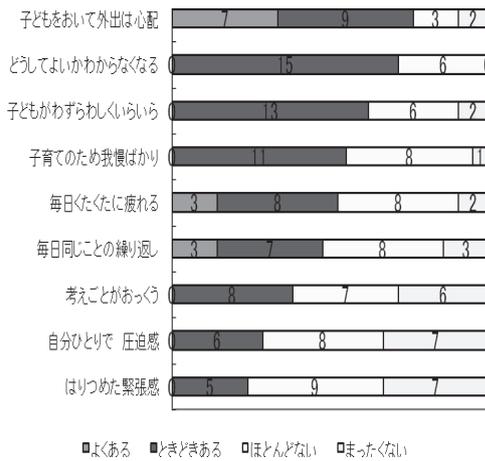


図4 子育て中の気持ち (不安、疲れ)

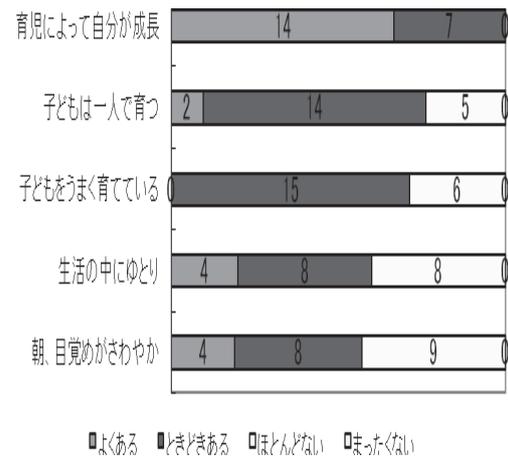


図5 子育て中の気持ち (満足、ゆとり)

(4) 子育て支援に期待すること

子育て支援に期待することについては、図6のように「おおいに期待する」とする回答が多かった。「安心して遊べる場所がほしい」(90.0%)、「子育てについての一般的な情報を得たい」(90.0%)、「子どもが友達と交流する場所がほしい」(85.0%)、「子どもが自ら体験し学べる場所がほしい」(80.0%)などに「おおいに期待する」と回答し、期待が大きいことがわかった。子育てについての情報としては、図7のように「子どもの心理的発達」(70.0%)、「子どもの問題行動についての知識や対応」(70.0%)、「子どもの身体の発達」(60.0%)、「年齢に合った遊びやおもちゃ」(60.0%)、「子どもの病気についての知識や対応」(60.0%)などの情報が必要とされた。

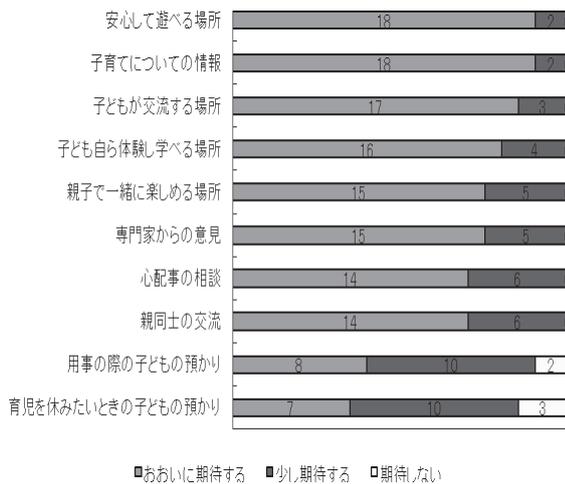


図6 子育て支援へ期待すること

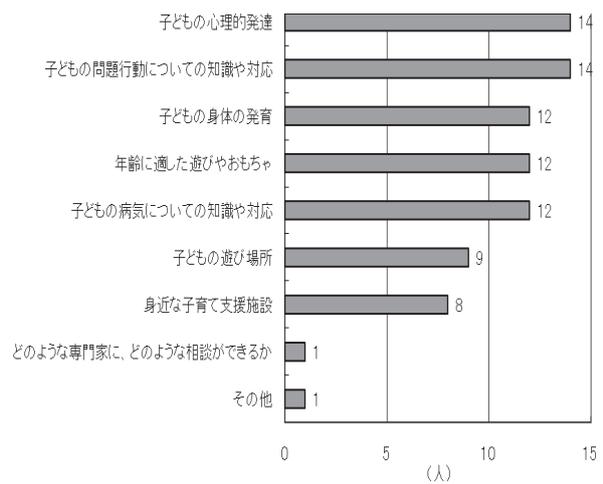


図7 子育てについて必要な情報

3) 考察

今回の調査は、子育て広場「たっくん」に参加された父親・母親21名と限られた対象から得られた結果であり、地域全体のニーズを反映しているとはいえない。しかし、今まさにこの地域で子育て支援を求めている人の声といえる。

回答者は、「育児によって自分が成長している」と感じている一方で、「子どものことで、ど

うしてよいかわからなくなることがある」、「子どもがわずらわしくて、いらいらしてしまう」ことも「ときどきある」と答えていて、子育ての喜びを感じながらも、不安や悩みを感じるときもあり、子育て支援に「おおいに期待する」とする回答が多かった。

子育て支援へ期待することでは「安心して遊べる場所」、「子育てについての一般的な情報」、「子どもが友達と交流する場所」、「子どもが自ら体験し学べる場所」など、子どもや親同士交流できる場所、情報が得られたり情報交換できる場所への期待が大きい。

「子育て支援」に関するニーズは強く、親子の交流、親同士、子ども同士の交流を通し情報交換や刺激を受ける場が必要と考えている人が多くいる。みな不安や悩みはある中で、子育て支援というきっかけにより、自信や楽しさにつなげるひとつの機会をもつ場や方法として子育て支援に対するニーズの高さが見えてくる調査であった。

3. まとめと今後の課題

今回の調査総数が21名と少なく限界はあるものの、調査結果より以下の点が示唆された。

- ① 子育てにあたっての不安や悩みとしては、「他者とのコミュニケーションの不足」に関することが多い。これは、換言するならば子育てにおける孤立化の傾向を示すものといえる。
- ② 「子育てにあたっての不安や悩み」と「子育て支援への期待」は表裏一体であり、関連性のある回答が多かった。
- ③ 「安心して遊べる場所が確保できていない」「安心して遊べる場所が欲しい」との回答は、現在の子育て事情を反映している内容である。身近に存在していた子どもの遊び場が事件等の増加により奪われてきており、新しい子育て支援のニーズとしてその期待が大きいことが示唆された。
- ④ 子育て支援として「子育てについての一般的な情報を得たい」との回答が高く、核家族化等により家族内での子育ての知識や情報の伝達が難しいことが示唆できる。

なお、今後の課題を以下に示すこととする。

- ① 引き続き調査を進め、検討を重ねる。
- ② アンケート内容は「浜松子ども館・子育て支援アンケート調査（勝浦範子・福岡欣治 教育アンケート調査年鑑上・2003 創育社）」で報告された設問を参考に作成した。それは、同じ浜松市内でありながら、繁華街と郊外にある子育て支援施設の利用者に同設問を行い比較検討することで、より地域に求められている子育て支援のニーズ・特徴が明らかになることが考えられるからであった。今後調査を進める中で、地域性を明らかにすることが検討課題である。

謝辞

本研究を実施するにあたり、質問紙調査にご協力いただきました、子育てひろば「たっくん」に参加いただきました保護者の皆様に深く感謝いたします。

<聖隷クリストファー大学社会福祉学部紀要 第8号（2010年3月31日）pp.51 - 61 >